

「群マネ」モデル都市「おおだて」の暮らしを支える「道路等包括管理」の取組み



秋田県 大館市 建設部 土木課

1. はじめに（人口減少化社会であっても幸せを導くまちへ）

当市は、米代川の恵みを糧に、「あきたこまち」や「山の芋」、「とんぶり」、「日本梨」など美味しい農産物を生産し、噛み応えある日本三大美味鶏「比内地鶏」と共に、全国各地へ供給しています。一方、医療機器製造やリサイクル産業を基軸とした製造業が、地域の雇用を支えています。本稿では、人口減少化社会でも、幸せを導くまちを目指す「道路等包括管理」の取組みをご紹介します。

人口減少化社会であっても幸せを導くまちへ



冬の風物詩 アメッコ市

「大館というところ。」

- ・定住と交流に注力
- ・先導的共生社会
- ホスタウン
- ・忠犬ハチ公のふる里

ライトアップ(市道大館駅東大館線)



- 人口 64,752人
- 世帯数 31,087世帯 (令和7年5月末現在)
- 面積 913.22km²
- 土地利用
 - ・森林78.8%
 - ・農地:8.4%
 - ・宅地:2.5%

○中心市街地が戦後4度の大火→豊かな自然の恵みを糧に復興し後世へ継承

○近代の産業は農業・林業・鉱業→現在は健康産業、リサイクル産業が基軸

○人口減少(千人減/年)や少子高齢化(高齢化率4割)→定住と交流へ注力

○心のバリアフリー醸成と多様なバリアフリー化を推進→互いを敬い寛容な社会へ

○ハチ公生誕100年を契機→渋谷区など多くの都市や関係者と連携

匠と歴史を伝承し、多様性を力に変えていく共創のまち

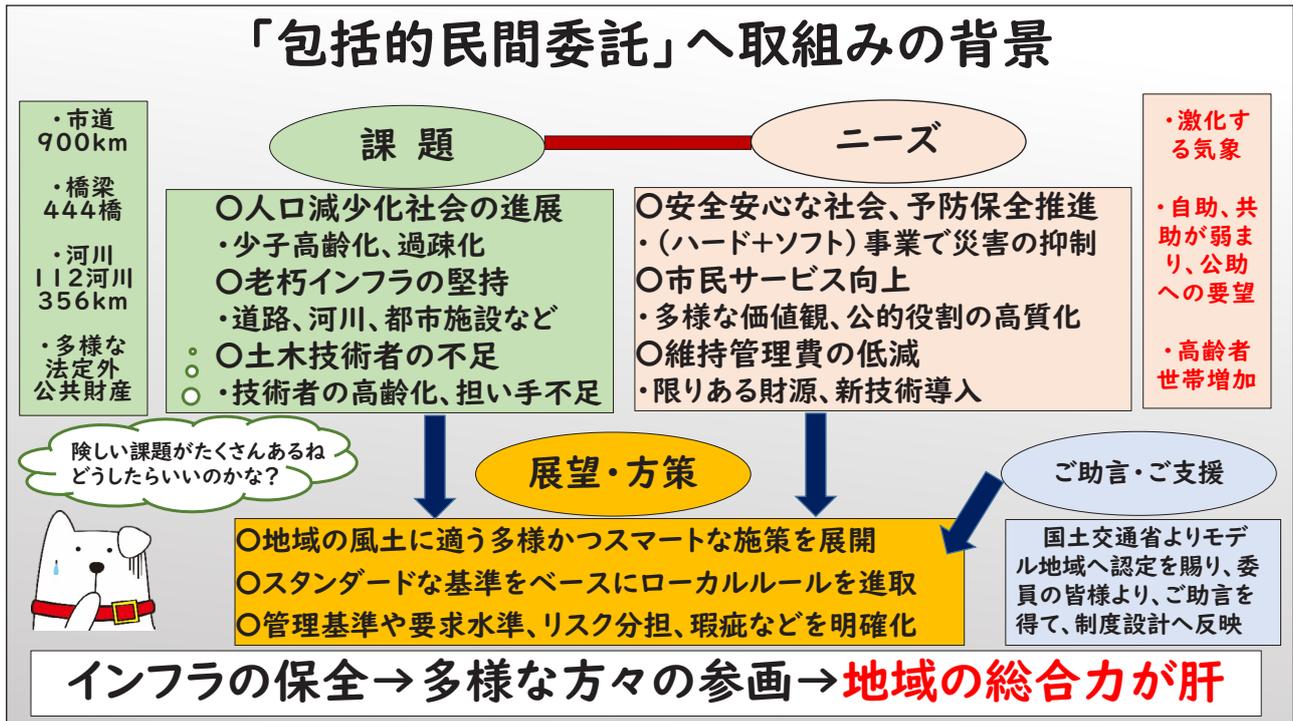
2. 大館市の課題と指針、視点

当市では、「少子高齢化」や「人材・人手不足」の社会要因に加え、インフラやライフラインの老朽化と向き合い、どのような手法で保全・継承していくのかを日々思考し、改善に努めています。「定住人口堅持と交流人口増加」を指針に掲げ、過疎を潜り抜けてきた営みの強みを活かし、俯瞰した視点で市民の暮らしを支える社会基盤を、後世へ継承することが大事だと考えています。

3. 「包括的民間委託」と「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」の取組み

当市が、インフラ継承の試行錯誤をしていた中で、令和3年6月に国土交通省総合政策局より、「包括的民間委託」導入の検討を支援するモデル自治体として、また令和5年12月には、「地域インフラ群再生

戦略マネジメント（群マネ）」のモデル地域へ選出いただき、多大なるご支援を賜りながら、民間の「技術力とマネジメント力」を最大限に発揮できる制度設計へ取り組んできました。



4. 「包括的民間委託」の試行と取り組み経緯

包括的民間委託の試行は、令和4年12月より大館南地域でスタートしました。地元の建設業者5社でJVを構成した事業者（代表：笹谷建設㈱）と共に、官民連携を深めた「共創」と、地域住民との「協働」を柱に、市民サービス向上を図り、次世代へ価値あるインフラの「継承」に注力しました。

「包括的民間委託」エリアを拡大中（令和4年より試行）

1. 取り組みの経過

- (1) 令和3年6月に国の「包括的民間委託モデル自治体へ選定」
- (2) 令和4年度～5年度に「大館南地域で試行実施」
- (3) 令和5年12月、国の「群マネ」モデル地域に選定
- (4) 令和6年度より大館南地域で本格実施(3箇年)
- ※道路点検DXシステム活用、新材料・新工法で舗装補修を試験施工
- (5) 令和7年度より大館西地域で実施(公園・農道・林道を追加)
- (6) 令和8年度に大館東地域を拡大予定(「下水路」を追加予定)

3. 概要

地域(年度)	大館南 R6~R8	大館西 R7~R9	大館東 R8~予定
面積(k㎡)	312.97	324.48	276.25
世帯数(世帯)	6,390	6,049	18,660
人口(人)	14,106	13,191	38,047
市道(路線・延長km)	462 / 313.9	428 / 247.5	972 / 381.9
橋梁	162	65	167
街路樹等(本)	125	100	1,400
河川(河川・延長km)	53 / 135.2	41 / 151.0	18 / 71.8
街区公園等(箇所)	-	4	16
農道・林道(路線・延長km)	- / -	26 / 20.8	11 / 8.7
下水路(路線)	-	-	99

2. エリア区分図

○合意形成へ注力
・「包括・群マネ」の価値と効果を議会や市民へご説明、情報発信
・地元建設業協会 会員の方々と、「制度設計と実行性」を意見交換
・事業の参画者へ施設管理者の視点で、優れた技術力とマネジメント力で、サービス向上を期待

令和8年度には、市全域へ拡大しよう

4. 特徴

維持管理業務を、全て「性能規定」とし、民間事業者の創意工夫やノウハウを最大限発揮できる仕様

豪雨災害による復旧時期と重なり人手不足の中で、損傷や老朽化が著しい道路路面の補修に努めました。肝となるのは、地勢や気候、風土を鑑みた「地域の総合力」だと感じています。

5. 「包括的民間委託」の本格実施とエリア拡大

試行期間を経て、令和6年4月より大館南地区の委託エリア（代表：笹谷建設(株)）を一部拡大し、契約期間3年、単年度あたり約1億円の費用で、本格実施に漕ぎつけました。全ての業務の仕様を「仕様規定」から「性能規定」へ改め、事業者の強みを最大限発揮できる制度設計としました。本年4月からは、大館西地区へエリア（代表：佐藤建設(株)）を拡大し、来年度は、いよいよ中心市街地を含むエリアへの包括業務拡大を目指し、市全域を網羅できるよう注力しているところです。

6. 北国の課題1（除排雪業務）

当市の1シーズンの累計降雪量は2m～6m、除雪回数は20回～30回、真冬日は約30日、除排雪への要望の電話は、約1,000件～2,000件です。深夜に幹線道路の除雪から始め、その後に生活道、そして歩道へと続き、最後に学校など各施設の除雪や坂道への融雪剤散布を行います。豪雪時への初動対応や、吹雪、みぞれなど気象の変化に応じた排雪など、地域特性に合う速やかな対策が重要になります。

当市では、除雪延長が約879kmに達し、全線一斉出動すると一晩で約4千万円を要します。北国では「雪は天からの授かりもの」と受けとめ、助け合って生きることを胸に刻んでいます。昨今の水分を多く含んだ雪には、市民も難儀しています。除排雪業務は、多様な方々に参画いただき現状を維持しており、包括的民間委託業務へ加えていくことの是非を検討しています。

課題（除排雪業務と道路の凍上災害対策）

《日々の暮らしを支える道路環境の堅持》
包括的民間委託業務へ除排雪業務の拡大検討と道路の凍上災害抑制、舗装改修

○除雪・排雪・融雪剤散布



激変する気象や
地域ニーズへ挑む



交差点の雪山

歩道除雪

○低温・凍結・凍上災害への対応



舗装クラックへ水の
進入防止と路盤強化



同一路線で路面の違い

雪解け時の補修を工夫

- ・北国では「雪は天からの授かりもの」⇒ **助け合って生きる!** 多様な方々が除排雪に従事
- ・除排雪業務⇒(委託72業者と直営22名、車両338台)で879kmの冬道を守る

7. 北国の課題2（凍上災害対策）

昨今は、厳しい寒波が訪れるマイナス10度から雨に変わる10度まで、冬期の気象変動が激しく、凍上災による道路環境の悪化に苦慮しています。同一の道路でも、埋設物復旧の影響や高層建物の日影の有無で、路盤の凍結融解に格差が生じ、凍上隆起や舗装のひび割れ拡大、欠損が多数発生します。補修方法も、復旧時期により暫定の手当てしか施すことができない場合も多く、きめ細かな工夫が必要です。

8. 群マネのモデル都市としての取組み1 (道路点検 DX)

北国の課題を踏まえ、包括的民間委託の中で新たに挑んでいる取組みをご紹介します。最初に、「GLOCAL-EYEZ」を用いたAI解析の道路点検です。スマートフォンで録画した内容を記録・集約し、補修に活用するもので、昨年6月に実施しました。道路パトロールと路面点検が同時に実施可能であり、可視化に加え、振動による弊害も測定、評価でき、実用性と汎用性が高まれば、道路管理の品質向上と点検コストの縮減効果に期待できるものと感じています。

取組み事例の紹介 (道路点検DXと舗装補修の試験施工)

○GLOCAL-EYEZによる道路点検 (スマホで録画・記録)
→点検結果をシステムでAI解析 (集約結果を補修へ活用)

○新材料・新工法で舗装補修を試験施工
→JV構成企業の本社やグループが総力をあげて注力

道路の分類別は専用車で点検 (幹線道路、重要路線)

連携

AI解析によるパトロール結果をインターネット上で即日確認可能!

点検結果帳票 補修提案

道路管理者

AI解析

段差 ひび割れ ジョイント 区画線かすれ

ポットホール パッチング

試験施工 → 経過観察 → 考察・検証
→ 最適方策を広く展開予定

柔軟性と強靭性を兼備する新素材

樹・マンホール周辺

4種類の合材で施工

○本技術は、国土交通省 NETIS登録技術
→道路パトロールと路面点検が同時に実施可能
→可視化に加え、振動による弊害も測定、評価

○従来手法の補修、修繕では資金も工期も限界
→現地の状況に相応しい材料、工法を幅広く試験
→機材や人手も地元で手配できる方策を実践中

実用性・汎用性向上→点検コスト縮減効果を期待

損傷が著しい舗装の耐久性や延命効果を期待

○上記システムで道路点検した結果、市道の大半がひび割れや欠損が多く、補修を要する現状
○舗装の試験施工は、施工後の経過観察のほか、施工時期の違いによる検証も実施
→ 予防保全型の維持補修へシフト → 損傷が著しい舗装へ一定規模の投資 (修繕・補修・改良) が必要

9. 群マネのモデル都市としての取組み2 (高品質材料を用いた舗装補修)

次に、高品質のアスファルト混合物を使用した、路面補修の実証試験です。港湾や空港などに用いる重荷重用特殊改質アスファルトや、手で曲げられるほど柔軟性と強靭性を兼備した高品質な材料に着目し、老朽化が著しいアスファルト道路の長寿命化・延命化策として、昨年と今年試験施工しました。具体的には、ひび割れが目立つ4路線へ4種類の合材で試験施工を行い、経過を観察しています。また、マンホールや路面排水柵との擦り付け、カッター跡の隙間の補修など、予防保全型の手当でも施しました。きっかけは、月例会議で議論した課題と可能性を関係者で協議・検討し、JVの構成企業である秋田ニチレキ(株)が本社の強力な後押しを得て実践しています。耐久性や費用対効果を精査し、最適と思われる方策を本格的に展開したいと考えています。

10. 垂直・水平連携の現状と多分野連携の可能性

当市の群マネは、「単独自治体で多分野横断」を基軸に取り組んでいます。一方、垂直連携や水平連携の可能性を関係者へご相談しています。中でも、秋田県と従来から取り組んでいる「道路巡回や除雪の相互協力」の拡大を協議しています。肝心の多分野連携は、当初の市道・河川の枠組みから、法定外公共用財産、公園、農道、林道と順次拡大してきました。今後は、都市下水路や橋梁点検などに加え、ウォーター

4 道路行政セミナー 2025.6

垂直・水平連携の現状と多分野連携の可能性

1. 国土交通省（垂直連携）

能代河川国道事務所 大館国道出張所へ当市の取組みをご紹介し、連携の可能性を相談
 ➔道路や河川の相互情報の共有と建設DX、新技術導入紹介などソフト事業連携を推進

2. 秋田県（垂直連携）

秋田県北秋田地域振興局へ当市の取組みをご紹介し、連携の可能性を相談
 ➔相互協力中の道路巡回や除雪を、さらに拡大する可能性などを継続協議中

3. 北秋田市・鹿角市・小坂町（水平連携）

各市町へ当市の取組みをご紹介し、連携の可能性を相談
 ➔取組みに共感いただいたが、連携手法に時間を要する課題が多く、相互支援が見込まれる除雪業務を関係者と精査中

4. 垂直連携の課題

- ①国や県は「線」で委託
➔市町村は「面」
- ②管理基準の違い
➔要求水準が異なる

5. 水平連携の課題

- ①総論賛成も各論が鍵
- ②関係者の意識醸成

6. 今後の取組み指針

- ①できることから実行
- ②失敗を恐れず改善

7. 可能性を見出す

- ①情報共有と意見交換
- ②制度変更→対話重要
- ③俯瞰の視点で捉える

8. 多分野連携の可能性

- ①新たな業務を追加予定
➔都市下水路（令和8年度～）
- ②さらなる連携を模索
➔橋梁の点検や調査、遊具点検
➔将来は除排雪、融雪剤散布
- ③性能規定適用の効果を期待
➔新技術導入やJVの強みを発揮
➔JV関係者が管理者の視点で遂行

受注者も、
複数年契約
は、雇用安定
や設備投資に有効だよ！

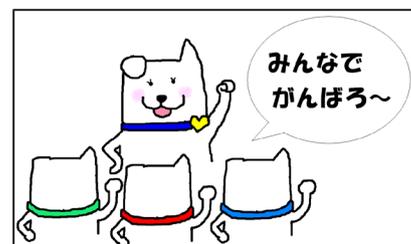


市民や利用者
と協働なら、
もっと良くなるね！



11. おわりに

本取組みを開始以来、「地域インフラ群再生戦略マネジメント実施手法検討会」の小澤先生や東京大学大学院の堀田教授はじめ、大勢の委員の皆様が、現地視察へお越しいただき、実り多いご助言を賜りました。将来像として、市内全域を包括業務でカバーした後、1つのJVへ再編することが望ましいのか、3つの地域で競い合う方が相応しいのかなど、多くの知見を授かりました。本取組みの一番の成果は、事業者が管理者の視点で日々遂行いただいていることです。引き続き、失敗を恐れず、改善を積み重ね、「良質なインフラが、市民の暮らしを支え、利用者の安全を守る」ことを胸に刻み、「市民サービス向上」に努めることをお約束し結びと致します。



大館南地区委託エリアと月例会議の様子



大館市 建設部 土木課 維持係メンバー

